# 各地域にはこんな魅力も！

松山、鹿島台、三本木地域には、ほかにも見どころや歴史がいっぱい。
ここでは地域ごとにその魅力を紹介。

## 鹿島台

鹿島台の自慢！

### ふたつの互市（たがいち）

明治43年（1910年）、わらじ村長こと鎌田三之助が村民の福利を図ろうと始めた「鹿島台互市」。始まって以来一度も休むことなく春と秋の年2回開催されている市は、今では植木や農産物など300を越える露店が並ぶ、東北最大の互市として広く知られている。また、昨年からは「昭和のふれあい互市」も毎月1回開催。昭和初期のにぎわいと懐かしさが再現されている。

▲鹿島台互市

▲昭和のふれあい互市

**[鹿島台互市]**
■開催日／11月10日（水）～12日（金）
■時間／9:00～16:30（12日は16:00まで）
■会場／鹿島台昭和通り（JR鹿島台駅～大崎市鹿島台総合支所）
■問合せ先／0229-56-5520（鹿島台互市運営委員会）

**[昭和のふれあい互市]**
■開催日／10月20日（水）、11月20日（土）
■時間／10:00～18:00
■会場／JR鹿島台駅前広場～商店街通り
■問合せ先／0229-56-2453
（大崎商工会鹿島台支所）

## 松山

「幻の人車軌道」と呼ばれる

### 松山地域の近代化産業遺産

大正11年（1922年）、松山町駅と駅から離れた町の中心部を結ぶために登場したのが「人車」。人力でレール上の車体を走らせ、多くの町民の足となっていたが、昭和4年（1929年）バスの導入により、約6年間という短い歴史の幕が閉じた。4両あった車両のうち2両は解体されたが、1両はきいたま市の「鉄道博物館」、復元された1両は「松山ふるさと歴史館」に展示されている。また複製された人車は「松山酒ミュージアム」前でも見ることができる。

2009年には、松山人車軌道の復元・複製された両車両が近代化産業遺産として認定された。

## 三本木

三本木といえば ひまわり！

### ■ひまわりの丘（ひまわりのおか）

春と夏のおでかけにはココもおすすめ！

春（4月下旬～5月上旬）には200万本の菜の花が、夏（8月上旬～中旬）には42万本のひまわりが丘一面に咲き誇る。

### ■道の駅・三本木 やまなみ（みちのえきさんぼんぎ やまなみ）

ひまわりのお菓子&お土産が勢揃い

生産者の顔が見える新鮮な朝採り野菜や生花、地場産品が所狭しと並ぶ。なかでも地元三本木の特産品・ひまわり浅漬った油や化粧品、スイーツは充実のラインナップ。

香ばしく焼き上げた「ひまわりワッフル」（120円）が一番人気。軽食コーナーで販売している「ひまわりソフト」（250円）もおすすめですよ。

スタッフ　石川 楓奈様さん

**隣には三本木亜炭の最盛期を今に伝える「三本木亜炭記念館」も！**

炭鉱の歴史を忘れないための資料館。日本一大きい亜炭柱が置かれています。亜炭運搬用に使われたオート三輪は、子供にも人気なんですよ。

大崎市三本木観光協会　渋谷 祐勇さん

■住所／大崎市三本木字大豆坂63-13
（亜炭記念館は大崎市三本木字大豆坂63-24）
■電話／0229-53-1333（亜炭記念館は0229-52-6232）
■営業時間／物産館9:00～19:00、食事処9:00～18:30
（12～3月は～18:00）、亜炭記念館9:00～17:00
■休／無休　■記念館入館料／無料
■HP／http://www.sanbongi.jp

**松山は、フランク永井のふるさとです。**

「有楽町で逢いましょう」や日本レコード大賞に輝いた「君恋し」などのヒットで知られる歌手・フランク永井は、実は松山出身。地元に帰ってくると必ず実家に寄り、かつてお世話になった近所の家にも顔を出す、ふるさと愛にあふれた人物であった。幼い頃はみんなをまとめる大将だった永井の大成功に、当時の町の人々は大盛り上がり。今もその輝かしい栄光の数々は「ふるさと歴史館」に大切に保存・展示されている。

秋にはコスモス祭りも開催！

### 御本丸公園（コスモス園）

中世松山の中心的な城である千石城跡、御本丸公園。大崎平野が一望できる高台にあり、コスモスが楽しめる公園として多くの人に親しまれている。

■住所／大崎市松山千石字本丸6
■問合せ先／0229-55-2114
（大崎市松山総合支所 産業建設課）

**コスモス祭りでは複製された人車に乗れる！**

人車に乗って車内の景色を眺めれば、タイムスリップしたような気分になりますよ。

一ノ蔵 常勤監査役　松本 雅雄さん